

3. 研究の計画

(1) 対象 福島市立T小学校4年生(18名)

(2) 要約文作成の仕方

① 文章中の主語を取り出し、中心となる主語を見つける。

② 文章中の述語を取り出し、中心となる述語を見つける。

③ 修飾語(上記①, ②の語句の次ぎの重要な語句, 補語)を2, 3見つける。

④ 中心となる言葉(上記の①, ②, ③の語句)を並べ変える。

⑤ 新たな一文を作る。

⑥ 文の飾り気をなくす。

- 要約は、抽象化 ○ 時制の一致

⑦ 他の適切な語に置き換える。

- 文の基本形は、「一文に一主語」
- 受動態は、能動態に換える。
- 主語の側の立場の語句に換える。

4. 授業の実態と考察(小4「体を守る皮ふ」)

第2段落の要点をまとめる学習を例に挙げる。教材文と児童の要約文の例は次に示した通りである。授業の初めの児童の自力の要約文は、例1~3のようになった。

例1のM男は、第4文を中心の文ととらえているが、書き抜いただけで主語「皮ふ

例1 (M男) 例2 (T男) 例3 (E子)

し皮
けふ
きを
すば
や部
くか
受ら
けて
るろ
。い
う
。な

け外
ろ部
くか
くか
受ら
るろ
はい
たろ
らな
がけ
あそ
るそ
す

いさ
ろわ
いわ
うた
うな
しう
けさ
が感
あじ
るこ
のよ
うに

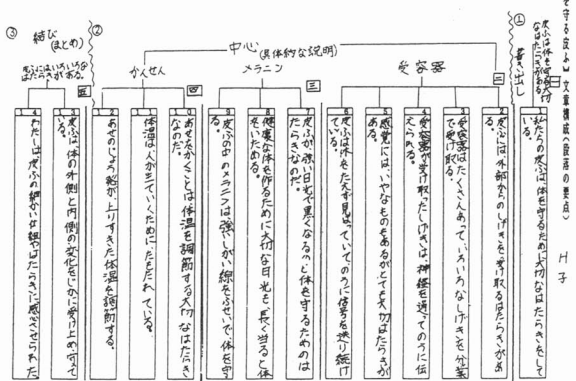
には」と述語「受けとる」が対応していない。例2のT男は、例1同様第4文を中心ととらえているが、述語「ある」に対する主語が欠落している。例3のE子は、第3文と第4文の重要と思われるところをつなぎ合わせたようになっているが、主語と述語が全く対応していない。また、「このように」という説明的文章では『まとめを表す言葉』の意味と働きが理解されていないようである。そこで、接続語「このように」に注目させ、その言葉を理解させることによって第4文を中心としてとらえ、次のようにまとめさせた。

皮ふには、外部からのしげきを受け取るはたらきがある。(26文字)

(2) 全体を見通し、要点をまとめた例

第2段落教材文

さいほうをしていて、うっかりはりをさすと、いたいと感じるでしょう。また、もえているストープにふれると、熱いと感じます。氷にふれば冷たいと感じますし、何かにさわれば、さわったという感じがします。このように、皮ふには、外部からのいろいろなしげきをすばやく受けるはたらきがあります。



① 書き出し
② 書き出し
③ 書き出し